

西脇市金蔵山植物採集記

(第19回生物学会採集会)

小林 拓 郎

雨上がりの清々しい金蔵山採集会、この山は海拔370m程で現在は兵庫県立自然公園の指定を受けており、この地方ではごく普通の山である。頂上近くに金蔵山ユースホステルがあり、宿泊、昼食など至極便利なハイキングコースでもあり、採集地でもある。麓の金蔵寺別院からの登山道を登るのが普通の採集コースで、この地方でも植物の豊富な山の一つである。特に珍しいと言う植物こそないが昔からの聖域で樹木もよく茂り、我々にとっては楽しい山でもある。麓からしばらくの間は登山道に沿って小川が流れ澄みきった清水が音高く流れている。別院の庭先から採集を始める。今はシライトソウの白い花が随所に見られ、秋になればアケボノソウが可愛い花を一ぱい開いて登山者の目を楽しませてくれる。水辺にはキンキヤマスゲ、ヤワラスゲなどスゲの仲間やイヌガンソク、イノデ、ゼンマイなどのシダ類も沢山生育している。急坂にかかるまでのしばらくの登山道沿いにはフタリヅカの可憐な花が沢山見られる。ヤマホトトギス、マツカゼソウ、チャルメルソウ、ムロウテンナンショウ、ミカエリソウにまじってベニシダ、カラクサイヌワラビ、ミヤマイタチシダ、ヒカゲノカズラなどがこの辺りにある。さらに登るにつれ両側にはマムシグサ、ホウチャクソウ、ウマノアシガタ、キクバオオレン、ウバユリ、トリアシショウマ、ヒロハノトンボソウ、ホランソブ、ミツデウラボシ、ヨウラクツツジなど、次から次へと目まぐるしいほどの種類が目に入ってくる。途中谷川を渉って登るがここに地蔵尊があり、清水で喉をうるほして一息入れる。ここにはサネカズラ、イワガミなどの蔓植物があり、ミミナグサ、リュウメンシダ、コバノイシカグマ、ニガナ、シハイスミレ、キンミズヒキ、ドクダミ、コアカソ、シソバツツナミ、ヤブムラサキ、タニウツギなどが点々と生育している。この谷川に沿って叢の中を下って行けば貴重な植物がみられるかも知れないと思いつつも時間がないのでさらに登る。ここまで約1時間半、ここから本堂まではもう半ぐらいである。ウスギヨウラク、モミジイチゴ、ナンキンナナカマド、ウラジロノキ、リュウメンシダ、ベニシダ、マルバベニシダなどが路端に点在する。マメツタやウチワゴケも処々に見られる。崖の上にはクロソヨゴの新緑が登山者の目を引き、アセビの白い花が半分散りかけた姿で歓迎して

くれる。モミの大木の根元にはヤダケの群落がみられ、フウリンウメドキが長い枝を垂れている。昼過ぎ本堂に到着昼食をとる。普段は誰もいない本堂に、今日は我々のために住職の奥方が来られてお茶のサービスをして下さる。ユースホステル利用者名簿に記名し、一金二十円也を支払う。前栽にはシャクナゲの大木が二株あり、いかにも山中の庭園らしい風情である。サツキやツツジの植え込みに混ってマンリョウ、ニワフジがあり、オノマンネグサの黄色い花が満開だ。チドメグサ、カラスビシャクもあり石垣の近くにはササユリが至る所に蕾をふくらませている。もう半月もすればこの花の香いで一杯になるだろう。本堂裏の谷間に一面のリュウメンシダの群生地があり、しばしその壮観に魅せられ歩を止める。ここから登山道は狭く急坂になり奥の院へと続く、いたる所にベニドウダンのちょうちん型の花が咲き美しい。ササユリも多い。アブラギリの風変わった花の咲いたのが3、4株珍しい植物、奥の院は大きな岩場で行者が訪れる所である。ここはシダが特に多くシダの宝庫とも言える。コウヤコケシノブ、シノブ、ミヤマイタチシダ、イワヒメワラビをはじめヌリトラノオ、イワトラノオ、ナライシダ、オオキジノオシダ、キジノオシダ、シシラン、イワハリガネワラビ、ウスヒメワラビなど枚举に暇ない程のシダが群生している。

下山したのは午後4時頃、再度の訪問を約して住職に別れを告げ車上の人となる。最後に当日の採集品を挙げて採集記を終る。

ミゾシダ、シシラン、ヤマイタチシダ、ヤワラシダ、コンダ、イヌシダ、ヒロハベニシダ、ノキシノブ、ヒメノキシノブ、ヒトツバ、キヨタキシダ、ホソバイヌワラビ、クマワラビ、ハカタシダ、ヤブソテツ、ウスバサイゴクベニシダ、ホソバシケンダ、サジガンクビソウ、ヤマズメノヤリ、カクミノスノキ、ネズミガヤ、キッコウハグマ、サイゴクミツバツツジ、コベニドウダン、ウシコロシ、リンドウ、アクシバ、ノリウツギ、ビロウドイチゴ、フユイチゴ、タケニグサ、コシアブラ、ツルニガナ、オニタビラコ、テイカカズラ、ミズキ、ネジキ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ソヨゴ、クロモジ、アセビ、ニガイチゴ、アオキ、モミ、アカメモチ、コウヤマキ、ツルグミ、アラカシ、ショウジョウバカマ、ノ

ギラン、ヒウガミズキ、キクバヤマボクチ、イタジイ、コジイ、アキノキリンソウ、アカメガシワ、ミズヒキ、コウヤボウキ、ジャガ、ツルクウヅ、キランソウ、クサギ、ヤブハギ、カキラン、ヤブジラミ、コマツナギ、ナデシコ、ゲンノショウコ、オヤブマオ、イタドリ、ツユクサ、ハコベ、ホオズキ、カスマグサ、キツネアザミ、

タチイヌノフグリ、アオカモジグサ、イヌガラシ、オオアレチノギク、ヤエムグラ、ヤマムグラ、ジンバリ、オトコヘシ、ウシノケグサ、タネツケバナ、ミツバアケビ、バアソブ、ヤブコウジ、マメヅタラン、ミヤマシキミ、ツルアリドオシ、コハウチカエデ、ツルリンドウ、ボタンズル……。

第19回生物学会総会

場 所 西脇高等学校体育館
日 時 5月30日(日)～31日(月)
天 候 凄しい雨一日中降り続く
人 員 約100名

朝早くからの凄しい雨で出足が鈍り、肌寒い感じで折角美しく飾った会場も満員にならなかった。

議事に入り第20回総会は神戸地区睦学園となり、夏期研修も決まり、森生物研究奨励金授与では、三木順一氏、藤本義昭氏が会員の拍手によって迎えられた。昼食は隣の特設コーナーでブラジル物産展を見ながら、そして海外移住事業団の提供でブラジルコーヒーの特別サービスを受け、なごやかにお互いの友情を交換し合った。

午後、例によって塚本洋太郎先生の「園芸植物の歴史の発展と現状」と題してのお話しとスライドで、楽しく欧州各地の美術史上に残る植物を見せて頂き、本当に面白かった。会員発表は

○兵庫県香住地区における採種用タマネギについて

(Botyitis菌について)

前田巳之助氏

- 日本産スマレ属の分類と生態 三木 順一氏
- イネ科植物の小舌部の特徴について 藤本 義昭氏
- ブラジルの生物相について 高島 義雄氏

などがあって4時30分頃無事終了。宿泊する人は雨の中を旅館松園へ行って貰って、夜の部7～9時までを南米の風物詩で終る。

○ブラジルの生物についてのスライド 高島 義雄氏
明けて第2日(5月31日(月))は、昨日に変わってまったくの好天に恵まれ、採集中止と言って連絡しておいた第1日目の予定を変更せざるを得なくなり、自家用車で金蔵山へ採集に行く8名を残して、30名余りは見学の道へ急いだ。

- 小沢染色工業株式会社
 - 播州紡績株式会社
 - 小沢織物株式会社
 - 播州織物工業協同組合加工場
- を見学し、午後2時頃解散する。

(文責平田)

三木 順一 先生 学位 ご 受 領

この度(12月23日)、スマレの三木順一先生が京都大学から医学博士の学位を受領されました。

先生は医者としては勿論のこと、スマレのご研究、野外の植物と動物、ことにミツバチのご研究では私のご紹介するまでもなく有名な方です。

なお一層、私どもの羨しいことは、先生ご一家がお揃いで自然物のご研究者であることです。

学位受領のお祝とともに、ますますご健康でわれわれ会員のご指導をお願いしましてお祝の言葉といたします。

(室井 緯)